

# 脳 実 習

科目責任者 徳 田 信 子  
学年・学期 2 学年・2 学期

## I. 前 文

これまで学んできた神経解剖学の知識をより具体化するため、脳解剖実習を行う。この脳実習により、2 次元的に学んだ脳・神経系は、より立体的に把握される事となる。

実習時には臨床的関連事項についても説明を行う。

## II. 担当教員

教 授	徳 田 信 子	解剖学
准 教 授	上 田 祐 司	解剖学
准 教 授	江 原 鮎 香	解剖学
講 師	山 口 剛	解剖学
学内講師	橋 篤 導	解剖学
助 教	北 沢 祐 介	解剖学
助 教	沢 登 祥 史	解剖学

## III. 一般学習目標

脳・神経系の構造と機能についての相関性の理解を深める。

## IV. 学修の到達目標

- 1) 脳の構造を立体的に把握し説明できる。
- 2) 脳の構造を機能の上から説明できる。

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1 : 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態))

2 : ディスカッション, デイバート 3 : グループワーク 4 : 実習, フィールドワーク 5 : プレゼンテーション  
6 : その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
	9	10	火	3	脳実習 オリエンテーション	全 員	
1		11	水	3	脳実習 (講義) 1	江 原 鮎 香	1
2		11	水	4	脳実習 2	全 員	4
3		11	水	5	脳実習 3	全 員	4
4		11	水	6	脳実習 4	全 員	4
5		12	木	3	脳実習 (講義) 5	江 原 鮎 香	1
6		12	木	4	脳実習 6	全 員	4
7		12	木	5	脳実習 7	全 員	4

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
8	9	12	木	6	脳実習 8	全 員	4
9		13	金	3	脳実習 (講義) 9	江 原 鮎 香	1
10		13	金	4	脳実習10	全 員	4
11		13	金	5	脳実習11	全 員	4
12		13	金	6	脳実習12	全 員	4
13		17	火	3	脳実習 (講義) 13	江 原 鮎 香	1
14		17	火	4	脳実習14	全 員	4
15		17	火	5	脳実習15	全 員	4
16		17	火	6	脳実習16	全 員	4
17		18	水	3	脳実習 (講義) 17	江 原 鮎 香	1
18		18	水	4	脳実習18	全 員	4
19		18	水	5	脳実習19	全 員	4
20		18	水	6	脳実習20	全 員	4

#### VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

定期試験 (95%), 課題提出など (5%) により, 総合的に評価する。

#### VII. 教科書・参考図書・AV資料

ハインズ 神経解剖学アトラス 第5版 山内 (訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル  
プロメテウス 解剖学アトラス 医学書院

#### VIII. 質問への対応方法

基本的に毎回の講義終了時に疑問は解決すること。

講義終了の休み時間, 放課後, 教室にて随時受け付ける。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置くDP    ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習課題は，実習中に巡回する教員が随時質問に応じる。

試験内容については，希望があれば講評・解説する。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載。

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。